

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金
 大学院生研究 2018年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 コミュニティ福祉学研究科 コミュニティ福祉学専攻	
指導教員	所属・職名	氏名
	コミュニティ福祉学部・教授	濁川孝志 印
研究課題名	立教大学新座キャンパスの生物多様性を高めるための調査および環境整備計画	
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名
	立教大学コミュニティ福祉学研究科・コミュニティ福祉学専攻・3年	奇二正彦 印
研究期間	2018年度	
研究経費	98,560円	

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

立教大学新座キャンパスの生物多様性を高めることを目的に、キャンパスとその周辺における主な緑地において生物調査を行った。調査方法はライントランセクト法。調査対象種は鳥類、大型昆虫類、両生爬虫類、哺乳類、クモ類等。使用する機材は、双眼鏡、デジカメ、録音機、バットディテクター、スマートフォン等。調査日は、2018年9月11日、2018年12月15日、2019年3月5日の3回。調査場所は、①キャンパス内、②キャンパス外東側にある生産緑地、中東公園、東野緑地周辺、③キャンパス外北側の東北小学校、北野公園周辺、④キャンパス外西側の農地、稲荷神社周辺、⑤キャンパス外南側の東野緑地、野火止フォレストパーク。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[生物多様性] [エコロジカルネットワーク] [ビオトープ]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

1、キャンパス内と周辺地域の生物調査の結果

調査1回目：2018年9月11日

① キャンパス内

- ・ 昆虫類 (30 種) マツモムシ、アメンボ、スズメバチの仲間、アシナガバチの仲間、セイヨウミツバチ、クマバチ、オオフタオビドロバチ、ホソヒラタアブ、クロアゲハ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、キアゲハ、ウラギンシジミ、モンキチョウ、モンシロチョウ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、ベニシジミ、ホシホウジャク、イチモンジセセリ、ナナホシテントウ、ナミテントウ、ハラビロカマキリ、オンブバッタ、エンマコオロギ、ツヅレサセコオロギ、カネタタキ、シバズ、アブラゼミ、シオカラトンボ
- ・ 鳥類 (7 種) スズメ、ツバメ、メジロ、コゲラ、キジバト、ハクセキレイ、ハシブトガラス
- ・ 哺乳類 (1 種) アブラコウモリ
- ・ クモ類 (1 種) ジョロウグモ
- ・ 外来種 (3 種) ドバト(鳥類)、アカボシゴマダラ(昆虫類)、ミシシippアカミミガメ(爬虫類)

② キャンパス外東側にある生産緑地、中東公園、東野緑地周辺

- ・ 昆虫類 (16 種) スズメバチの仲間、アシナガバチの仲間、セイヨウミツバチ、アブラゼミ、ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、ベニシジミ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ホシホウジャク、イチモンジセセリ、カネタタキ、ヒシバッタ、エンマコオロギ、シモフリスズメ幼虫
- ・ 鳥類 (5 種) スズメ、シジュウカラ、ヒヨドリ、キジバト、ハシボソガラス
- ・ クモ類 (1 種) ジョロウグモ

③ キャンパス外北側の東北小学校、北野公園周辺

- ・ 昆虫類 (4 種) アブラゼミ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリ、ツマグロヒョウモン
- ・ 鳥類 (6 種) スズメ、メジロ、シジュウカラ、ハクセキレイ、キジバト、ハシブトガラス
- ・ 外来種 (1 種) ドバト

④ キャンパス外西側の農地、稲荷神社周辺

- ・ 昆虫類 (2 種) ミンミンゼミ、ヤマトシジミ
- ・ 鳥類 (4 種) スズメ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、オオタカ
- ・ クモ類 (1 種) ジョロウグモ
- ・ 外来種 (1 種) ドバト

⑤ キャンパス外南側の東野緑地、野火止フォレストパーク

- ・ 昆虫類 (25 種) ハイイロチョッキリ(卵)、スズメバチの仲間、アシナガバチの仲間、ホソヒラタアブ、オンブバッタ、ショウリョウバッタ、サトクダマキモドキ、エンマコオロギ、ツヅレサセコオロギ、シバズ、カネタタキ、アオマツムシ、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヤマトシジミ、クロアゲハ、モンシロチョウ、ジャノメチョウの仲間、サトキマダラヒカゲ、ホシホウジャク、オオスカシバ、ナミテントウ、カナブン、ハラビロカマキリ
- ・ 鳥類 (8 種) ツバメ、シジュウカラ、メジロ、エナガ、ヒヨドリ、コゲラ、キジバト、ハシブトガラス
- ・ クモ類 (1 種) ジョロウグモ
- ・ 外来種 (2 種) ドバト(鳥類)、アカボシゴマダラ(昆虫類)

調査2回目：2018年12月15日

① キャンパス内

- ・ 昆虫類 (2 種) シバズ、カネタタキ
- ・ 鳥類 (10 種) スズメ、メジロ、シジュウカラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、ハシボソガラス、オオタカ

② キャンパス外東側にある生産緑地、中東公園、東野緑地周辺

- ・ 鳥類 (4 種) スズメ、ヒヨドリ、ツグミ、ハシボソガラス

③ キャンパス外北側の東北小学校、北野公園周辺

研究成果の概要 つづき

- ・ 鳥類 (2 種) スズメ、ヒヨドリ
- ④ キャンパス外西側の農地、稲荷神社周辺
 - ・ 昆虫類 (1 種) カネタタキ
 - ・ 鳥類 (2 種) スズメ、ハシボソガラス
 - ・ 外来種 (1 種) ドバト
- ⑤ キャンパス外南側の東野緑地、野火止フォレストパーク
 - ・ 昆虫類 (2 種) シバズ、カネタタキ
 - ・ 鳥類 (12 種) スズメ、メジロ、シジュウカラ、マヒワ、ヤマガラ、キジバト、ムクドリ、ヒヨドリ、コゲラ、オナガ、ジョウビタキ、ハシボソガラス
 - ・ クモ類 (1 種) ジョロウグモ
 - ・ 外来種 (1 種) ドバト(鳥類)

調査 3 回目：2018 年 3 月 15 日

- ① キャンパス内
 - ・ 鳥類 (13 種) スズメ、メジロ、シジュウカラ、カワラヒワ、キジバト、ヒヨドリ、ツグミ、ムクドリ、ハクセキレイ、オナガ、コゲラ、ハシボソガラス、オオタカ
 - ・ 両生類 (1 種) アズマヒキガエルの卵塊
 - ・ 外来種 (1 種) ドバト
- ② キャンパス外東側にある生産緑地、中東公園、東野緑地周辺
 - ・ 鳥類 (7 種) スズメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ムクドリ、エナガ、キジバト、ハシボソガラス
- ③ キャンパス外北側の東北小学校、北野公園周辺
 - ・ 鳥類 (2 種) スズメ、メジロ
- ④ キャンパス外西側の農地、稲荷神社周辺
 - ・ 鳥類 (7 種) スズメ、メジロ、シジュウカラ、キジバト、ツグミ、ヒヨドリ、ムクドリ
- ⑤ キャンパス外南側の東野緑地、野火止フォレストパーク
 - ・ 鳥類 (10 種) スズメ、メジロ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、コゲラ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、ハシボソガラス
 - ・ 外来種 (1 種) ドバト

2、調査の評価

キャンパス内の環境は、草地が少なく木本が多いため、確認できた昆虫類は飛翔力のあるハチ、アブ、チョウ、トンボの仲間が多かった。一方、草地が少なくとも生息できるコオロギの仲間、樹上性のカネタタキやハラビロカマキリも確認できた。鳥類は都市部でも見られる普通種が多いが、今年度初めてオオタカを確認した。おそらく周辺の森林で繁殖し、キャンパスまで食べものを採りに来ていたと思われる。水辺はキャンパス内に 2 箇所あり、5 号館前の池では、マツモムシやアメンボが見られたことから、周辺の水辺から飛来していると思われる。また、本年度初めて調査した、キャンパス北側にあるビオトープ池では 3 月にアズマヒキガエルの卵塊を確認したことから、キャンパス北側ではアズマヒキガエルが生息していると思われる。

周辺環境においては、今年度初めて東野小学校に隣接する東野緑地を調査地に入れた。東野緑地はコナラを主とする雑木林で、ハイイロチョッキリが産卵したと思われる枝葉つきドングリを多数確認できた。近隣にある野火止フォレストパークとともに、生物多様性が豊かな環境である。

周辺環境とのエコロジカルネットワークをより豊かに構築し、新座キャンパスの生物多様性を向上させるためには、キャンパス内に少ない環境である、草本・低木層を増やすことが関係すると思われる。特に建物の屋上は使われてない箇所が多く見受けられることから、生物多様性を意識した屋上緑化を導入することが望ましいと考える。

※ この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)